

巻 頭 言

変化に素早く対応

常務取締役

岩 本 弘



“変化に素早く対応”これは、数年前に決めた、当社の行動規範の一つです。又、99年度のスローガンは、スピード。チェンジ・革新：21世紀への基礎を築きます。です。現状の技術開発にぴったり当てはまる言葉です。

当社は、1950年代に、日本初のオートラジオをクラウンに純正として採用していただいて以来、カーオーディオ・ナビゲーションなどのAV機器、エンジン制御・エアバッグECUに代表される制御機器、タクシー無線通信・配車管理システムなど、自動車関連通信システムを3本に柱にして、カーエレクトロニクスに特化して発展してきました。

その間、20世紀は自動車の世紀と言われるほど、車は我々の生活になくてはならない必需品になってきました。反面、環境、安全などへの負の効果を、21世紀の課題として残しました。

一方、通信技術の進歩と、パソコンの急速な普及で、インターネットによりあらゆる情報が、リアルタイムで全世界の人が活用できるようになってきました。

この情報通信技術を道路交通分野に活用し、安全の確保、道路の効率的利用をしようとの試み（ITS：Intelligent Transport Systems、高度道路交通システム）が、全世界で活発化しています。

当社もその一翼を担うべく、具体的な活動を展開しており、その成果の一端が、この富士通テン技報にも再三紹介されています。一例を上げると、システムでは、各種高度ナビゲーションシステム、GPSを用いた自動配車システム、車載LANゲートウェイECU、エアバッグシステムなどです。又、キー技術では、ミリ波レーダ、画像処理、音声の認識と合成、表示技術、CD・MDデッキメカニズムなどです。

当社の技術開発は、21世紀に向けITSにフォーカスして動きだしています。

しかし、この技術を、環境保全、安全の確保などに繋がる真のITS商品にするには、沢山のハードルがあります。例えば、商品価格・利用費・品質などのハード、インフラ・コンテンツなどのソフト、さらにボーダレス化を意識した規格の統一などです。

これらは、国際的な大競争の中で、猛烈なスピードで成長し、変化していくでしょう。その変化に加え、DOG YEARと言われるほど、革新の早い情報通信技術を活用するのですから、ITS関連商品開発は、ハード・ソフトを問わず、まさに変化に素早く対応するスピードが求められます。我々の超えるべきハードルが沢山あり、しかも変化するとなれば、その都度素早く対応することが最も理にかなった解決策です。

21世紀間際になって、技術開発のスピードが早くなったのと同様に、企業そのものが、激動の波の中で、素早い変革を求められています。この現象は、あらゆる情報をリアルタイムに活用できることになったことと無縁ではないでしょう。情報をリアルタイムに入手できれば、当然、対応も早くなります。それが変化をさらに加速し、グローバルな競争を益々激化させていると思います。

こんな時代こそ、我々は、変化に素早く対応し、スピード・チャレンジ・革新をキーワードにして、21世紀の基礎作りに全力で邁進してまいります。